

2024 年 4 月 30 日

2023 年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 社会福祉法人イースターヴィレッジ
ホーム名 マルコの家
代表者・役職名 氏名 ホーム長 野原知子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

職員研修

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

開設者の前ホーム長は長く里親をした経験から、10代の子には自分の未来を考えられる安全で安心できる生活環境が必要であると強く感じていました。しかし当時栃木県内には自立援助ホームが1か所のみであり、利用できる人数に限りがありました。そこで県内2か所目の自立援助ホームとし

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

新型コロナウイルスの影響で対面研修が激減しました。リモート研修は便利ですが、講師からの話を受けることが主となり、受講者からの意見や質問をしにくい側面があります。複雑な成育歴を背負った子ども達との関わりにスタッフの精神的負担感、孤独感が大きくなることも多く、それがスタッフのバーンアウト、離職に繋がっている背景があります。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

公認心理士、社会福祉士として実際の福祉現場で実践を積み重ねている中島氏を講師に招き、自己理解、子ども達の理解を基礎とした関係作りや職員間での円滑な人間関係作りについて学び、今後のより良い子ども達へのサポート、施設の環境作りを目指します。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

講義の内容を日常の中の具体的な事象に置き換えて考えたり、全員が自分の言葉で発言したりする機会を設定し、受け身にならない研修を目指しました。その結果、今まで言葉にし難かった悩みについても話し合うことができ、更に子ども達への理解も深まりました。成果として子ども達への関わり方、言葉の選び方に変化が生まれ、ホーム内が非常に落ち着きました。また、離職者もでることなく安定したスタッフで運営できていることも大きな効果と考えます。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

全員参加を目指したため、シフトの調整に苦慮しました。研修については今後も継続してほしいという意見も多いため、自主事業として継続していきたいと思えます。将来的にはスタッフそれぞれが講師となって研修ができるような、自己研鑽を促していきたいと考えています。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

